

講義名	経済学入門		
科目区分	専門基礎科目		
担当教員	森脇 丈子		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>			
<p>わたしたちの生活は経済と深く結びついています。しかしそれらがどのように結びついているのかについては具体的に理解していないことが多いのも事実です。例えば、私たちが購入する商品には、国内で生産されたもの、海外生産で輸入されたもの、海外で生産された部品を使って仕上げられたものなどがあります。商品の生産や販売や消費は常に安定的に行われるのでしょうか。もし生産や消費が安定的でない場合があるとすれば、それらを引き起こす要因にはどのようなことが考えられるでしょうか。</p> <p>この授業では、経済ニュースが理解できるように、経済に関連する基礎的な用語や仕組みを学びます。</p>			

<b>到達目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済の基礎的な用語を理解します。</li> <li>2. 経済の基礎的な仕組みを理解します。</li> <li>3. 日常的な話題を扱った経済ニュースの内容を理解できる知識を身につけます。</li> <li>4. 国際関係をふまえた日本経済の動きについて理解し、自分の考えを持てるようにします。</li> </ol>			
<b>提出課題</b>			
2回の課題提出を予定しています。1回あたりの評価点は25点満点、課題の合計50点満点です。			
<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>			
「課題」提出の翌週の授業で、いくつかの回答をとりあげ、それらに対するコメントをします。			

<b>評価の基準</b>			
<p>課題（50%）、定期試験（50%）による総合評価を行います。 2回分の課題の50点満点と、試験の50点満点を合わせて、合計60点以上を合格とします。</p>			
<b>履修にあたっての注意・助言他</b>			
<p>「講義連絡」で予習を提示します。それにもとづき、授業の準備をしてください。</p> <p>日頃から、新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事、企業活動や消費者行動などに関する情報を収集しておいてください。</p> <p>第1回目の授業に必ず出席し、評価方法についてしっかりと理解したうえで、受講してください。</p> <p>関連科目として、次の講義の受講を勧めます。 《生活構造論、消費文化論、消費者問題論、NPO論、アミューズメント事業論》</p>			

<b>教科書</b>
・「使用しない」。

<b>プリント資料及び参考文献</b>
<p>授業で使用するプリントは、「講義連絡」に添付します。印刷できる人は、印刷してください。授業ではメモをとってください。印刷できない人は、ノートを用意して、かならずメモをとってください。</p> <p>参考文献 ・吉川徹(2018)『日本の分断 切り離される非大卒若者たち』、光文社新書 ・内田樹、藤山浩、宇根豊、平川克美(2018)『「農業を株式会社化する」という無理 これからの農業論』、家の光協会</p>

<b>授業計画</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、経済学は何を対象としているか</li> <li>2. 日本の人口構造、人口構造の変化：都市への人口集中、単身世帯の増加</li> <li>3. 家計消費と貯蓄 平均所得、金融資産の平均額、所得の格差</li> <li>4. 雇用と失業 労働力人口、失業率、女性の就業率、増加する非正規雇用、AI</li> <li>5. 物価と地価 消費者物価の推移、地価の推移</li> <li>6. 社会保障の現状 社会保障とは、年金制度とその問題点、医療保険制度</li> <li>7. 少子高齢化問題 世代間格差の問題、労働力の不足</li> <li>8. 企業の姿 事務所の状況、国際化する日本企業、日本的経営の特徴</li> <li>9. 食料問題 国内の食料消費、国内の農業生産、食料自給率、農業</li> <li>10. エネルギー問題 日本のエネルギー事情、エネルギー自給率、日本の電力需要</li> <li>11. 金融の役割 日本の金融機関、経済活動の仕組み、貨幣</li> <li>12. 貿易 貿易収支の推移、輸出品目の変化、主な貿易相手国、日本の国際収支</li> <li>13. 戦後日本経済の概略(1) 高度経済成長期、バブルの時代、平成不況の時代、デフレ</li> <li>14. 戦後日本経済の概略(2) リーマン・ショック、欧州財政危機</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>
<input type="checkbox"/> ア：PBL（課題解決型学習） <input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） <input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> エ：グループワーク <input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション <input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>
<p>「講義連絡」に掲載された予習を、授業開始時までに済ませておいてください（作業時間：2時間程度）。</p> <p>その日の授業で扱った内容は、次の授業の理解の基礎になります。また、課題で合格点をとるために必要な知識となります。授業で使用したプリントを用いて、基礎的な内容の復習をしてください。また、配布した新聞記事などを利用して、具体的な事例で授業内容をより深く理解できるように努め、ノートに要点をまとめておいてください。（作業時間：2時間程度）。</p>

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>
オンライン授業になった場合には、授業中に質問を出し、受講生にチャットで意見を述べてもらいます。

<b>実務経験の有無及び活用</b>

<b>備考</b>
<p>第1回目の授業ガイダンスに必ず出席してください。</p> <p>授業ではメモをとって、理解を深めてください。</p>